

招聘研究者：ボブ・ホワイト教授

所属機関： モントリオール大学

招聘期間：2019 年 10 月 20 日～10 月 30 日

講義日時：2019 年 10 月 29 日（火）14 時 00 分～16 時 30 分

講義会場：明治大学中野キャンパス 512 教室

講義題目：カナダのインターカルチュラル・シティー日本への示唆は何か

ボブ・ホワイト教授は、モントリオール大学人類学科教授であり、同大学に設置された異文化関係研究室（LABRRI）のディレクターを務めている。カナダにおけるインターカルチュラル・シティー（ICC）研究の第一人者である。ICC は、2008 年に欧州評議会のイニシアティブで始まった自治体のプログラムで、移民がもたらす多様性を活かした都市づくりをめざしている。欧州で始まったプログラムであるが、近年、オーストラリアやカナダ、北アフリカ、東アジアにも広がり、現在、137 都市が参加している。

ホワイト教授は来日した翌日の 10 月 21 日に、筆者の案内で外国人の集住地域として知られる新宿区大久保地域の視察を行うとともに、今後の共同研究の方向性について意見交換を行った。続いて、10 月 23、24 日に浜松市と国際交流基金が主催し、浜松市で開催された都市間連携国際サミット 2019 浜松に、筆者と共に参加した。浜松市は、ICC プログラムに参加する日本唯一の都市であるが、同サミットには、同じく会員都市であるポートシルカ市（スウェーデン）市長とバララット市（オーストラリア）副市長および両都市の ICC 担当職員、さらに欧州評議会の ICC 専門家のフィル・ウッド氏が参加し、筆者がパネル討論のモデレータを務めた。

会議参加後の 10 月 29 日に、ホワイト教授は、明治大学中野キャンパスにおいて、「カナダのインターカルチュラル・シティー日本への示唆は何か」と題した講義を行なった。この講義には、学内外から 10 名近い参加者が聴講した。ホワイト教授は、ICC プログラムのカナダの唯一の会員都市であるモントリオール市の取り組みについて解説した後、大久保地域の視察及び国際サミットでの討議を踏まえて、日本の多文化共生に関する評価を行った。その後、ウッド氏によるコメントを受け、参加者からの質疑応答の時間に移ったが、多文化主義（multiculturalism）とインターカルチュラリズム（interculturalism）の違いや、日本の多文化共生がめざす方向性についての討論が行われた。なお、講義終了後には、国際交流基金の職員や外国人の若者を支援する NPO 団体の関係者も加わり、幅広い観点から、日本の多文化共生のこれからについて白熱した討論が続いた。

（2020 年 2 月 27 日作成）